

平成 28 年(2016 年)2 月 22 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校
校長 濱野 裕 民

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本校では、学校教育活動の改善等のため、昨年 12 月に「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施いたしました。児童は 100%、保護者は 93%の回答となりました。その後、データを集計し、分析作業を行ってきました。そして、明らかになった課題に対し、校内で協議を重ね改善の方向性をまとめました。その間、2 月 12 日の学校協議会では各委員の方々より意見をいただきました。

集計結果をみると、ほとんどの項目においてプラス評価となっています。このことは、本校の教育活動に対してご理解を得られている部分が多いと考えることができ、大変元気の出る結果となりました。しかしながら、質問 1 において肯定的意見が 100%でないことに重きを置き、課題の見極めを行うとともに“楽しいと思える学校づくり”により一層力を入れていく所存です。また、各質問で、まだマイナス評価があることも真摯に受け止め、改善を進めていきたいと考えています。

以下に、特徴的な項目について、「結果の分析による自己評価」・「改善の方向性」・「関係者評価（学校協議会委員よりいただいた意見）」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約を添付していますのでご覧ください。

今後も本校は、

- ・すべての子どもたちが、いきいきと活動できること
- ・どの子にも楽しく「わかる」「できる」確かな学びを保証する授業づくり（ユニバーサルデザインに基づいた指導・支援の工夫）

を大切に、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を力強く進めていきます。そのため、保護者・地域の方々や関係機関との連携が大切になります。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

互いに認め合い、人権を大切にする集団作り	
結果の分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目で、多くの肯定的評価を受けたことから、日々の集団づくりの実践や人権教育の取り組みに一定の成果がみられる。 ・「学校が楽しいと思えない」という児童が、昨年度に引き続き若干名いるので、その理由や背景をつかんでいねいに対応していく必要がある。 ・「あいさつ」に関しては、肯定的な評価の割合が高いが、自分から進んであいさつのできる児童は多くないように感じる。 ・「自己肯定感」に関しては、全体的には肯定的評価が高かったが、学年が上がるにつれてその割合が減少している。発達段階・単学級などの要因を意識した学級集団づくりをしていく必要がある。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から児童理解につとめ、児童の状況を教職員で共有する。 ・児童の小さな変化を見逃さず、学校全体でアプローチしていく。 ・肯定的な言葉かけを意識し、一人ひとりのがんばりを学級集団に返していく。その際、結果だけでなく、そこまでのプロセスも大切にする。 ・挨拶に関しては、ここ数年少しずつ肯定的評価の割合が高くなっているので、これまでの取り組みを粘り強く続けていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己肯定感」は、思っていたより高い評価だったが、自己肯定感の持てない子どもにやれる手立て（成功体験を多く持たせる、出前授業等）を考える必要がある。
日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
結果の分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事」については、昨年度に引き続き高い肯定的評価を維持している。保護者にも、子どもたちの前向きな姿を感じ取ってもらえていると考えている。一方で、児童の D 評価が 2%から 4%に増えていることにも注目し、全児童が目標を持てるようにしていかなければならない。 ・「外遊び」についても、昨年度より肯定的評価が増える結果となった。特に児童は、肯定的評価が 12%増え、休み時間に外に出て遊ぶ習慣がついてきていると考えられる。さらに D 評価が 9%から 3%に減ったことは、体を動かすことに積極的ではない児童も、学級の取り組みなどで外に出て遊ぶことができたと推測できる。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が学校行事を通じて充実感や達成感を味わえるよう、児童が主体となって活動できるようにする。 ・学校行事に少しでも前向きに取り組めるような活動を考える。 ・体育委員会や各学級で体を動かす機会を意図的に設けていく。 ・たくさん子どもたちが外で遊べるよう、引き続き、体を動かす機会を意図的に設ける。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・外に出なければならないという強迫観念にとらわれないような形で、外遊びが推奨されるとよい。

確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
結果の分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業は楽しくて、よくわかる」の割合が減っていることに着目しなければならない。授業のエンバールデザインを進めてきたが、もう一度ここで「楽しさ」に関しても研究し、授業の進め方、工夫を考えていく必要がある。 ・「家庭学習・宿題」においては、前年度より評価が上昇している。低学年・中学年はきちんと宿題をすることを身につける、高学年から家庭学習の習慣を身につける、という学校全体での取り組みの成果が現れている。 ・読書に関しては、児童の意欲的な読者活動を推進するとともに、「うちどく」の取り組みなどを通して、学校と家庭が連携していく必要がある。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の工夫や充実、研究を重ねる。 ・成果が現れている取り組みは継続していく。 ・宿題や家庭学習の習慣づけ、家庭学習の目的や進め方などを引き続き児童に提示するとともに、家庭へも発信していく。 ・家での読書は、「うちどく」の活用や家で読む機会を与えるなど、読書の方法や質を考える必要がある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・エンバールデザインの取り組みや成果を保護者にも知らせてほしい。 ・習熟度別授業は今後も続けてほしい。 ・家庭での読書量が少ない分、学校での読書の時間は貴重である。
地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して）	
結果の分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や学習発表会の評判が良かった。また、授業参観の回数の増加（3回から4回）や個人懇談を学期内に持ったことで、子どもの頑張りを参観できる機会が多かったため、保護者の満足度が高かったと考えられる。 ・学習施設・設備に対する肯定的評価は昨年度より低い。老朽化等もあり、十分満足できる状態とはいえない。 ・学校の情報提供や危機管理には一定の評価をいただいているが、より充実させていく必要がある。 ・今年度も多くのボランティアさんにサポートをいただき、子どもたちの安全や成長を育んでいただいている。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備については、町に報告し、改善を図る。また、地域や保護者の方の協力を得ながら、自助努力も行っていく。 ・危機管理マニュアルを精査し、徹底を図る。また、いざという時のために訓練を行い、諸機関との連携と準備を進めておく。 ・学校だよりやHP等学校情報の提供をより充実したものにしていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備については、PTA等の協力のもと、取り組んでいけるとよい。 ・学校情報をさらに積極的に発信していけるとよい。